

富岡製糸場と深谷人

「第3回」

至誠神の如し

尾高惇忠 その②

尾高惇忠は明治二年(一八六九)十一月の「備前渠取入口事件」では地元農民の先頭に立ち、事件解決のために同志の金井元治・荒木翠軒・桃井直三と合議して民部省に提訴、翌年明治三年(一八七〇)この事件の解決を見ました。これが縁で同年四月十日民部省に任官します。尾高の登用は、民部省の玉乃世履に見い出されたことによります。

新政府に招かれ、官営富岡製糸場の建設に計画当初から携わり、初代所長を務めます。惇忠は『至誠如神』の四文字を富岡製糸場の所長室に掲げ、工場建設から工女募集に至るまで全力を傾倒し、採用した工女には人間性を重視する教育を施しました。

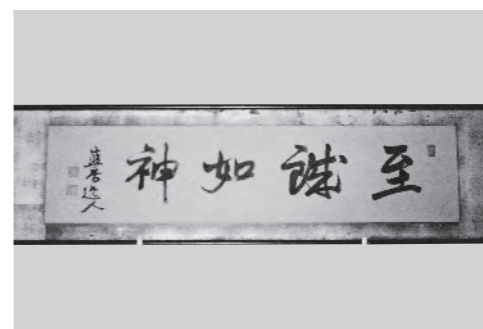
この動きを敏感に捉えた明治政府の伊藤博文や渋沢栄一らは、日本産生糸の信頼回復と貿易振興を図り、国力の充実に資するため、日本人による近代的製糸工場の建設を建議します。これを受けた明治政府は製糸場を建設することを明治三年(一八七〇)に決定しました。

その直後には製糸場の建設場所を決めるため、東京から遠くなく養蚕が盛んで製糸に適した候補地

として武蔵(埼玉)・上野(群馬)・信濃(長野)を調査し、その中から製糸場予定地を富岡に決定しました。

明治政府が主体となった製糸場には、フランス人のポール・ブリュナを雇い入れ、西洋の器械製糸技術を導入することになりました。この製糸場は模範工場としての性格を強く持っていました。

(文：荻野勝正)



▲藍香(尾高惇忠)揮毫の『至誠如神』扁額(筆者撮影) 意訳:誠意を尽くせば、その姿そのものが神様と同じ、神の如しである



伝える技と心の富岡製糸 『伝習工場』

富岡製糸場は操業当初は近代的な器械製糸の技術と工場制度を学ぶ一種の学校であった。また休日や夜間には工女に『読み書き』『そろばん』『裁縫』などを教えた。このため故郷へ帰国後は繰糸技術と富岡製糸場内の文化が伝えられた。

(『富岡製糸場「絵手紙かるた」』NPO法人富岡製糸場を愛する会 より)

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

市長の深い話

深谷市長 小島 進



皆さまからの支援を

深谷市は、出荷量全国第1位のネギやユリをはじめとして、多くの農畜産物が全国有数の出荷量を誇っています。そんな深谷の農畜産物が、2月の記録的な降雪により甚大な被害を被りました。3か月以上経過した現在でも倒壊したビニールハウスなどを目にします。市内にはまだ当時の爪痕が残っており、農業者のかたは不安を抱えたまま日々を過ごしています。

こうした状況を打破すべく、市ではさまざまな対策に取り組んでいます。その一つに、『ふかや・農業応援寄附金(ふるさと納税)』

があります。

『ふかや・農業応援寄附金(ふるさと納税)』は、市内農業の復旧と再建という趣旨に賛同してくださったかたから寄付を募り、いただいた寄付金を被災した農業用施設解体や再建費用など農業者のかたへの再建支援のために使わせていただくというものです。そして、1万円以上の寄付をしていただいたかたのうち希望するかたには、農業者のかたから感謝の気持ちとして深谷の特産品をお送りしています。受付当初から多くのかたが趣旨に賛同してくださり、いただいた寄付金は5月20日現在で86件、150万円を超えました。

降雪直後にお会いした農業者のかたからは「市長、もう農業なんてやってられないよ」という声も聞かれましたが、最近では「何とかもう一度やってみるよ」と言ってくるかたが増えてきました。

市内農業の復旧再建にはまだまだ時間がかかります。農業者のかたが今後も意欲を持って農業を継続していけるように、そして市内農業が一日も早く復旧再建できるように、どうぞ、皆さまの支援をお願いいたします。

ありがとうの手紙



最優秀賞
中学生の部
東北のみなさんへ

藤沢中学校2年(現3年) 大澤明莉さん

東日本大震災から二年四ヶ月が経ちました。テレビや新聞で、まだ原発や震災の生々しい映像を見かけます。でも東北のみなさんの笑顔を見るととても元気になります。ありがとうございます。私はこの事がきっかけで看護師になりたいという夢を持ちはじめました。人の役に立ちたいと思い、積極的にボランティア活動に参加するようにしています。一人一人が声をかけ合い助け合って、この世界中に、『ありがとうの花』がたくさん咲くように。

みんなの声BOX

Q 深谷市では小型家電のリサイクルを行っていますか？

A 深谷清掃センターで使用済小型家電を受け入れています。

市では、再資源化のため、パソコンやカメラなど家庭用の使用済小型家電(家電リサイクル法対象品を除く)を、試験的に深谷清掃センターで受け入れています。

詳しくは『平成26年度 ごみの分け方・出し方』のチラシをご覧ください。市ホームページをご確認ください。

問い合わせ
環境衛生課(☎)
585-2215)

